



Title	デザイン教育とコンピュータ : 大阪美術専門学校:デザインCAD専攻・新設について
Author(s)	斎藤, 信
Citation	デザイン理論. 1995, 34, p. 142-143
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53124
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

デザイン教育とコンピュータ 大阪美術専門学校：デザインCAD専攻・新設について CAD工房 M design works

齋藤 信／大阪芸術大学・福井工業大学・大阪美術専門学校

0. はじめに

この研究発表は大阪芸術大学付属大阪美術専門学校に1995年4月に新設されました『デザインCAD専攻』設立にともない、はたして人間が仕事のための道具として開発したコンピュータを、教育という生き物のなかでどう扱うべきか、コンピュータを道具として実務と教育との両面で使っている者のひとりとして、今回の新設専攻のプロデュースに参加させていただくにいたり『新専攻その目的と内容』を『CGとCADの位置付け』『道具としてのコンピュータ』と共に、研究発表いたします。

1. 「新専攻その目的と内容」

新専攻名については、CAD本来の意味であるデザイン業務を支援するコンピュータシステムとして、キャドでなく“CAD”として、特にプロダクトやスペース系の企業に強く認識されているのが現状であるとともに、工業系の高等学校ではコンピュータを使用しての製図実習として“CAD”を選択授業に組み入れているところも多くなっていますので一般的にも理解できる専攻名だと考え、機械や建設の製図作業だけではなく、もう少しソフトなあつかいを含める意味で“デザインCAD専攻”となりました。

設備面では原則としてパーソナルコンピュータレベルでの設備で教育していきます。実務レベルでのCADは、大・中型より小型つまりパーソナルコンピュータを使用している場合が多く、パーソナルコンピュータも上限になれば一般実務レベルでの仕事にはかえ

って使いやすいからです。

機種と台数については、先ず NEC・H98 シリーズと IBM と Apple・Power Macintosh シリーズを使い分けしていく予定です。

H98はCPUも旧式であります。IBMとともに各企業での現存設備の度合いからしてもソフトウェアの種類と内容からしても、デザインの現場に有効な選択だと考えます。

Apple・Power Macintosh はプレゼンテーション用です。パーソナルコンピュータをデザインの現場に普及させたのは Macintosh だといっても過言でないと思います。つまりより使いやすいOSと使用感の統一されたソフトウェア群を持った機械で、デザイン業務の末端の作業を簡略化する方向でのプレゼンテーションには最適の機械であると考えます。

コンピュータを使用しての教育は1教室に1機種を多数配置し、大型モニタを見せながら講師がインストラクトする方式が今までは主流であったと思います。それは一度に多数の学生を教育できるメリットは大きいのですがそれはアシスタントがあつてのことです。つまり学生の数でなく機械の数の問題であり疑問やトラブルは同時に起こるわけでもなくそれぞれの機械の前で学生に対応している間授業は中断され、予定のカリキュラムを通そうとすると、ついてくることのできない学生たちを置き去りにせざるをえない場合が多々あるからです。そういう学生が独自で学びたくとも、コンピュータ設置教室を開放し使用させるには管理のことを考えねばならず、学生たちにコンピュータを購入させることを義

務づけられるようになるまでは、極力授業時間内で作業を終わらせ、より効率の良いクラス分けで多数の学生に使用させるほうが有効だと考えます。

“デザインCAD専攻”では、NEC、IBM、Apple、をすべて最高値に近いコンディションに主記憶容量（RAM）と補助記憶装置（ハードディスク）も拡張増設し合計16機で設備構成しています。学生数も15～16人が1講師で有効に教えることの出来る限界であると考えています。

OSも現在のパーソナルコンピュータでは主流である、Dos/WindowsとMac/OSの2種類のOSを経験させる計画です。

カリキュラムについては、コンピュータを使って何らかの造形活動をしようという専攻である限りコンピュータに対しての基本的概念と操作法は1回生前期のレベルでマスターさせなければならないと考えています。

ただコンピュータソフトのオペレータを養成するだけなら、専門学校として2年間も必要としません。大阪美術専門学校のデザインCAD専攻は、打ち合わせができ（話を理解できて）、ユニークな発想力があり（創造力があり）、プレゼンテーションができる（表現力がある）、その手段にコンピュータを使うことが得意である人材を育成できる専攻になればよいと考えます。

専攻全体のスタンディングポイントとしてはクリエイターの強力なアシスタントを養成する専攻と設定しました。そしてできれば卒業時には、CAD利用技術者認定資格を持って卒業できるような授業を組み入れています。

2. 『CGとCADの位置付け』

時代は進みCGはよりレベルの高い表現を求め、そのためにワークステーションを使いより専門的にパワーアップし、もはやアート

としてある種の世界を確立しています。

それに対し道具としてより使いやすくなったパーソナルコンピュータとソフトウェアで、DTPやマルチメディアは視覚系学生、CADは工業系や空間系の学生の必須基礎科目になると思います。《見せるための映像をつくるものCG》《使うためのものを設計するものCAD》と位置付け、フリーハンドでアイデアをまとめ、CADで設計または作図し、確認修正を加え、よりハイレベルなプレゼンテーションはCGにまかせる。

現実すべてのデザインワークではないにしてもいずれはそうになっていくと感じています。

3. 『道具としてのコンピュータ』

パーソナルコンピュータが一般的になってまだ15年にもなりません。その当時は何もかもがめざらしく未完成で、メーカーやディーラー、そしてソフトハウスと研究しながら仕事をこなしていったおぼえがあります。時代が流れコンピュータの能力も格段とアップし逆に値段はダウンしました。

私は基本的にデザインとは美的要素を強く持ったビジネスだと考えています。

そのビジネスのために、より有効な手段を選ぶのがデザイナーだと考えます。

コンピュータは基本ソフトウェアとしてのOSの進歩と専門ソフトウェアの改良により一般的な家庭電化製品と同じような感覚でより有効で使いやすいデザインのための道具になるでしょう。

情報もそのメディアもあふれている今、教えられる側の個性と本質を未熟な技術のせいで見失うことなく、ある部分で楽しみながら学ぶようなデザイン教育ができるなら、そのためにコンピュータが本当に使いやすいなら実務の世界だけでなく教育の世界でも有効な道具になりえると考えこの新専攻で実践していきたく思っています。